

連絡橋ルート比較表

	円弧型	直線型	直角型	S字型(点对称)	S字型(非点对称)
ルート図					
ルートの特徴	片側の大きな曲線線形で既存樹林の中を通るルート	直線線形にて最短で本体建物にアクセスするルート	直角の平面線形により伐採本数を最小限に抑えるルート	緩やかなS字線形かつ短スパンで伐採本数にも配慮したルート	大きなS字線形で、公園を俯瞰しつつ伐採本数にも配慮したルート
歩行距離 (利便性)	△ 90m	◎ 65m	△ 74m	◎ 68m	△ 92m
	最長に近い距離になってしまう。コストアップにもつながる可能性。	歩行距離を最小限に抑え、本体建物にアクセスが可能。	樹木伐採を抑えるために迂回させており、歩行距離が長くなる。	歩行距離を少なく、本体建物にアクセスが可能。	樹木伐採を抑えるため迂回させており、歩行距離が最長になってしまう。
構造安定性に要するコスト (事業実現性)	△	◎	△	◎	○
	片側の大きな曲線形で暴風時や地震時における橋の挙動が複雑となるうえ、スパンも長いいため構造的安定性を確保するためのコストは高価となる。	構造上はシンプルでありスパンも短く、暴風時や地震時における橋の挙動も単純であり、構造的安定性を確保するためのコストは最も安価となる。	直角の平面線形は暴風時や地震時における橋の挙動が複雑となり、地下鉄と近接するため、構造的安定性を確保するためのコストは最も高価となる。	暴風時や地震時における橋の挙動も比較的単純な線形であり、構造的安定性を確保するためのコストは安価となる。	大きな曲線形で暴風時や地震時における橋の挙動が複雑となるうえスパンが長く、構造的安定性を確保するためのコストはやや高価となる。
保存樹林 伐採予定本数 ※()内は保存樹林以外も含めた 総伐採予定本数	△ 15本(30本)	△ 12本(14本)	◎ 6本(6本)	○ 8本(9本)	○ 9本(13本)
	樹林帯の中を通る長い曲線線形であるため、伐採本数が最も多くなる。	直線形状で樹林帯の中を突っ切るため、伐採本数が多くなる。	樹林帯の影響を最優先した線形であり、伐採本数を最小とすることが可能。	曲線形状で樹林帯を極力回避することで、伐採本数を抑えることが可能。	曲線形状で樹林帯を極力回避することで、伐採本数を抑えることが可能。
総合評価	△	○	△	◎	○
総評	保存樹林への影響が最も大きく、利用者の利便性や事業実現性に難があるため、総合評価は最も低い。	利用者の利便性や事業実現性には優れたものの、保存樹林への影響が比較的大きいことから、総合評価は次点となる。	保存樹林への影響は最も小さいものの、利便性も平易で、構造上の制約から事業実現性に大きな難があるため、総合評価は低い。	保存樹林への影響を比較的少なく抑えながら、利用者の利便性及び事業実現性とのバランスに優れており、総合評価は最も高い。	保存樹林への影響は比較的少ないが、利便性や事業実現性に難があることから、総合評価は中位となる。